

# 最新技術でレベルアップ

商品 観光とインフラ 講演も

交通安全施設業協同組合

県交通安全施設業協同組合（白鳥和重理事長）は、賛助会員による商品説明会を27日、千葉市中央区の千葉商工会議所14

階のホールで開いた。観光立県支援フォーラムの鈴木忠治理事長による講演「千葉県のインフラ整備と観光について」と併

せて開催されたもので、参加者は県内インフラ整備の近況や方向性について学び、メーカーが説明する最新の技術などにつ

いて理解を深めた。当日は、県土整備部の神作秀雄道路整備課長や佐藤政弘道路環境課長ら県関係者をはじめ、組合

日刊建設新聞 10月29日 水曜日 掲載



白鳥理事長

員企業の技術者など70人以上が参加し、関心の高さがうかがわれた。会中は座席を追加するなど大変な盛況のうちに、講演会と説明会あわせて午後2時から5時まで進められた。

あいさつに立った白鳥理事長は先ず、多くの参加者に感謝し、また、県土整備部の目まぐるの協力・支援に対し謝意を示した。同組合が正会員25社、賛助会員9社で構成していることを説明した上で、「観光標識の整備状況や、新製品・新技術などにつ



鈴木氏が講演

いて勉強会などを開き、組合のレベルアップを図っていきたい」と、最新の技術や商品を学ぶことの意義を強調。

以前に比べ県内海水浴場への来客数が激減しているとの報道に言及し、海水浴に限らず海岸を眺めたり、名産品の食事をするなど、観光が多様化していることを指摘。同組合の顧問を務める観光立県支援フォーラムの鈴木理事長が多忙の中、講演を快諾したことにお礼



HPなどで詳しく説明

の言葉を述べたから、組合員らに共に勉強しようと呼び掛けた。講演会では、国土交通省や県で要職を歴任した鈴木理事長が多様な切り口で、本県のインフラ整備と観光に



商品など4社が説明

休憩を挟み行われた説明会では、賛助会員4社がオーバーヘッドプロジェクト（OHP）などを用いて、自社の最新技術などを詳しく紹介。参加者は知識を吸収しようとする熱心に、担当者の話に聞き入っていた。説明会で取り上げた商品などは次の通り。

- ▽信号器材㈱||蓄光貼付式グラフィックサイン、全天候型路面標示材
- ▽㈱トウペ||視覚障害者誘導帯トアエスコート
- ▽㈱星光商会||「観光・防災」サイン、これからの取り組み
- ▽神東塗料㈱||樹脂系すべり止め方ラー舗装